

研修会報告

平成 29 年 3 月 4 日

文責：東北医科薬科大学病院 佐藤 正樹

研修会テーマ 病理細胞診・一般検査部門合同学術研修会

「体腔液検査の基礎と細胞の見方、がん薬物療法における曝露対策について」

開催日時 平成 29 年 3 月 4 日（土）14：00～17：10

会場 東北医科薬科大学病院 大会議室

司会：東北医科薬科大学病院 佐藤 正樹

講演 1

座長：エコー療育園 佐藤美砂

「体腔液の検査」

講師：公立藤田総合病院 臨床検査室 加井丈治技師

講演 2

座長：東北医科薬科大学病院 佐藤 正樹

「体腔液検査について」

講師：石巻赤十字病院 病理部 尾池裕子技師

講演 3

座長：石巻赤十字病院 病理部 菅原勲

「がん薬物療法における曝露対策について」

講師：中外製薬株式会社 東京第一支店 営業本部 学術・教育担当 平田益巳先生

生涯教育点数 専門 20 点

参加者 会員参加者 25 名 実務委員（講師含む）9 名 計 34 名

内容

今回は病理細胞診部門と一般検査部門の合同研修会として開催しました。テーマは「体腔液検査」とした。お互いの分野の基礎的な検査方法を知ってもらうことで、参加者の知識と視野を広げてもらうことを目的とした。

講演 1 は公立藤田総合病院の加井丈治技師から一般検査における基礎的な講演をしていただいた。胸水や腹水などの各体腔液における検査の意義や性状検査、潮流のメカニズムや浸出液、漏出液の分類方法などの解説をされた。加井技師は関節液の検査のプロフェッショナルということもあり、関節液の検査についても解説された。最後は実際の症例を数例挙げて参加者とディスカッションが行われた。また、一部の施設で検査値の補正がされていないことや測定項目が不足している例がみられるとの問題点が挙げられた。

講演 2 は石巻赤十字病院の尾池技師から病理細胞診分野における体腔液についての講演をしていただいた。感染対策を含めた検体処理法からギムザ染色とパパニコロウ染色における細胞の見方の違い、セルブロック法による免疫染色などについて解説をされた。デ

ディスカッションでは検体処理時の感染対策についての質問が挙がった。細胞診分野では感染対策が徐々に浸透していているものの、まだ完璧ではない。一般検査分野においてもまだまだ意識が足りないのではないかという意見が出た。また、セルブロック法についてもいろいろな方法があるという意見が出た。

講演3では中外製薬株式会社の平田益巳先生よりがん薬物療法における曝露対策についての講演が行われた。近年、がんの化学療法がめざましく進歩していて、とり扱う量や種類が増加している。取り扱う医療従事者に健康被害を及ぼす薬剤（Hazard Drug:HD）という概念は薬剤師や看護師などの一部の医療従事者には浸透してきているものの、臨床検査技師にはまだまだ知られていない。今回は HD 曝露対策の現状と臨床検査技師にどのような機会に曝露リスクがあるか、その対策などの解説が行われた。現在、臨床検査技師はそれらに曝露するリスクがあるのにもかかわらず、その意識は低い。感染管理も含めてこれからの課題になっていくものと考えられた。

今回は合同研修会であったが、テーマを体腔液としたため、予想よりも参加者が少なかった。しかし、体腔液の検査を通じて互いの分野の基礎的なことを学ぶことが出来、両分野の共通した問題などが見つかった点は大きな収穫があった研修会であった。